

II - C - 2

漢方薬が奏効したリウマチ性
多発筋痛症の一例

埼玉医科大学 第2内科

○浅岡俊之、今井隆喜、大野修嗣

【緒言】リウマチ性多発筋痛症(Polymyalgia rheumatica, 以下PMR)は、頸部、肩、腰部の筋肉に激しい痛みとこわばりが出現し、発熱、倦怠、体重減少などの全身症状が認められる。赤沈値はほとんどの患者で1時間40mm以上まで亢進し、副腎皮質ホルモン治療にて著効が得られることが特徴である。今回我々は、副腎皮質ホルモン減量中に、PMRが再燃し、柴苓湯、薏苡仁湯、芍薬甘草湯によって軽快、さらに副腎皮質ホルモン剤を減量、中止できた症例を経験したので報告する。

【症例】53才女性、昭和62年4月下旬より頸部のこわばりと疼痛にて発症。筋痛は激しく、両肩、両上腕に広がり、赤沈値1時間100mm以上となり、プレドニソロン10mg/日によって改善傾向を示したことからPMRと診断。

【経過】プレドニソロン減量にて再び筋痛再燃し、赤沈値も1時間83mmと亢進が認められ、漢方治療を求めて当科外来受診。柴苓湯、薏苡仁湯により、2カ月後には頸部のこわばりのみとなり、体重も増加傾向が認められ、プレドニソロン減量再開した。初診より半年後にはプレドニソロン中止とし、赤沈も1時間値35mmと改善した。その後、現在まで柴苓湯、芍薬甘草湯のみの投与にて経過良好である。

【考察】リウマチ性多発筋痛症が副腎皮質ステロイド剤減量中に再燃し、漢方治療によって症状、赤沈等の改善が認められ、副腎皮質ステロイド剤を中止することができた症例を経験した。今後多くの施設で評価に価する結果であると考えられた。